



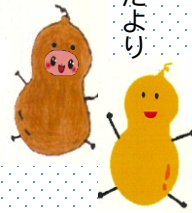
▲菅野先生。ほがらかな笑顔で地元の人に親しまれています

「生まれ育った故郷の診療所に単身赴任を決断。人生最大の分岐点でしたが良かったと思います」

百目木にある岩代国保診療所に長年医師として勤務している菅野和治先生に、医師になった経緯や子ども時代のこと、ふるさとに帰ってきた理由や診療所に勤務して感じることを、休日の過ごし方などを伺いました。

かわら版

集落支援員だより



Q 医師になったいきさつは？

茂原で農家の長男として生まれましたが、「家を継がなくていいから、自分の好きなことをやりなさい」と親に言われてきました。

中学二年



▲岩代国保診療所。地元の人々の社交場の役割も

Q 故郷に帰ってきた理由は？

生の三学期に「受験勉強に集中できるように」といわきの叔父の家にお世話になることを勧められました。その頃から「夢を持つ自由を与えてくれた親のためにも、社会に貢献できる仕事に就きたい」と思うようになりました。医師を選んだのは、百目木で医院を営んでいた叔父の影響が大きいと感じています。

大学を卒業後、いわき市の医療センター（旧磐城共立病院）の循環器内科に勤務し、忙しい毎日を送っていました。四十代になった頃、旧岩代町から「百

菅野先生の趣味& 休日の過ごし方は？



菅野先生には長年続けてきた趣味があります。木工品はどれもプロ級の腕前で驚かされました。尺八の演奏も機会があればぜひ聴いてみたいと思いました。

◆木工：昔から物を作ることが好きだった菅野先生。自宅に工房があり、木工を楽しんでいます。最初の作品は、小学校に入学する娘さんのための勉強机。仕事の合間に1年かけて完成した力作で、今はお孫さんが使っているそうです。

◆尺八：塩ビ管で尺八を手作りする機会があり、東京の尺八の先生から「合格！」と褒められ、演奏の指導を受けることになりました。その先生が亡くなり、今は独学ですが、尺八の音が何とか出せるようになったと感じるそうです。

◆登山：震災後に一時体調を崩した時期があり「何か運動を」と思い、登山を始めました。東北や北アルプスの山々に登っているそうです。



▲診察室のデスクには、菅野先生が手作りした作品があります

目木の診療所に医師が不在なので、来てもらえませんか？」と打診されました。

ちようど家を建てたばかりで子供も小学生でしたので悩みました。でも、「ふるさとの役に立ちたい」という思いが勝り、家族と離れて単身赴任で行くことを決意。自分でも人生の分岐点だったと感じています。

Q 医師として感じることは？

診療所の医師は専門的知識だけでなく全般的な医療知識が必要とされます。不安もありましたが、いろいろな症状の患者さんを見ることで自分も学ばせていただけたと感じています。勤務医時代よりも一人一人の患者さんとのつながりが深くな

ったのが嬉しい点ですね。患者さんだけでなく、お子さんやお孫さんまで家族全員を診ることも多く、色々な楽しみもあり、やりがいを感じています。

Q 菅野先生からのメッセージ

長年の経験から思うのは、年配の方ほど痛みがあっても我慢してしまふことです。場合によ

っては手遅れになることもあります。なので、我慢しないで早めに受診していただきたいです。



▲診療所のスタッフのみなさんと

～ごみの出し方講座①～
限りある資源の有効利用を！
プラスチックごみは
透明袋をご活用ください

もとみやクリーンセンターを訪問し、ごみ分別の注意点について話を伺ったところ、青色の「ビニール・プラスチックごみ」の袋に入れられているごみのほとんどが透明の「プラスチック製容器包装」の袋に入れるべきごみであるとのこと。「プラスチック製容器包装」のごみはリサイクルされ、地球温暖化の要因となる温室効果ガスの減少に寄与します。
 ♻️マークごみの分別にご協力ください。

◆ **♻️透明な(プラスチック製容器包装)袋**

- <水洗いで固形物を流すだけでOK>
- カップ麺の容器などは水で流すだけでOK
- 食品トレイや発泡スチロールなども水で洗い流し、固形物を取り除かれていればOK
- サラダ油や醤油など調味料の容器は使い切って、軽く水洗いでOK
- 洗剤類などのパウチパックも中身を使い切り、水で洗い流すだけでOK

◆ **青色の(ビニール・プラスチック)袋**

→バケツや洗面器などの硬質プラスチック類、汚れが落ちないビニール・プラスチックなど

▶右のQRコードから最新版ごみ分別マニュアルの小冊子にアクセスできます



▲道の駅「さくらの郷」の向かい側にある石橋。江戸後期～大正初期に造られた石橋として選奨土木遺産に認定

私の家の近所には石造りの橋があります。この橋が昨年、「福島の石橋群」として県の選奨土木遺産に認定されたことを耳にし、懐かしい思い出が蘇ってきました。子供の間、石橋のすぐ横には川をまたぐ形で駄菓子屋が建っていました。写真屋や饅頭屋もあり、あの一帯が賑わっていた記憶があります。それ以前は木の造の粗末な橋だったのですが、近くに住む人が「地元のため、頑丈な橋を」と多額の寄付をしてくれました。建設を任された石工は、皇居の橋を真似て石橋を造ったと聞いています。



◇ **紹介者** ◇
東新殿在住
佐藤喜三さん



「石橋のそばに桜の木や緑があり、フォトスポットとしてもおすすめ」

▲「旧明道眼鏡橋」という看板も橋の欄干には「次郎右衛門橋」の名が記されています。昔は国鉄バスが橋の上を通りましたが、国道となってから橋の利用はほとんどなくなりました。気づかない人が多いですが、歴史的价值のある石橋ですので、一度訪ねてみてください。

(※寄付してくれたのは「菊地果樹園」の菊地英男さんの高祖父にあたる方だそうです。)



岩代の歴史シリーズ
両属の将 石川弾正の生涯 ③

石川弾正顕彰会事務局長
 日下部 善己

三 奥州石川氏の成立

弾正光昌の本宗家は奥州石川氏で、そのルーツは平安時代の清和天皇(在位八五八〜八七六年)である。その孫、六孫王は源の姓を賜り源経基として臣下となった。清和源氏の始まりである。その子源満仲は、陸奥国の経営に当たり源氏発展の基礎をつくった。満仲の子に頼光、頼親、頼信がいる。源頼光は、坂田金時や渡辺綱等とともに鬼を退治したとの伝承が残る豪傑である。源頼信は、鎮守府將軍となり、その子が頼義、孫に八幡太郎義家がおり東国支配を積極的に進めた。この家系には源頼朝、足利尊氏、新田義貞が連なる。

さて、今回の主役は大和守源頼親の家系である。その子頼遠は、平安時代後期の前九年の役で源頼義・義家を助け陸奥で戦死した。共に従軍した頼遠の子、摂津国住人源有光は十一世紀後半以降に陸奥国石川郡地方(福島県)に所領を得て石川冠者有光と名乗った。奥州石川氏(本宗)の初代である。その後、三芦城(石川町)を本拠に勢力を拡大した。後の当主の多くが室町將軍の名の一字を用いており、陸奥の武家の名門として処遇されていたと考えられている。